

2026 年度 (令和8年度) 学校評価自己評価表

一ツ橋中学校区	校番 12	福山市立引野小学校
最終更新日		2026年(令和 8年) 4月6日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容</p> <p>主体的な学びや地域と関わる教育活動は各校で進んでいる。一方で、その成果や目指す子供像の共有は十分とは言えず、連携は協力段階にとどまっている。今後は、発信の充実とビジョンの共有を図り、地域と協働して子供を育てる体制づくりが求められる。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>学力の定着が不十分で、特に思考力・表現力に課題がある。</p> <p>不登校や登校渋りが微増傾向にあり、取組を継続している。</p> <p>探究的な学習について校区で推進しており、児童生徒が自ら問いを立て探究する姿が増えてきている。</p>	<p>育成する 資質・能力</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として 統一した取組等</p>	<p>「学びに向かう力」「課題発見・解決力」「自己・他者理解力」</p> <p>自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身に付けている。</p> <p>「自ら考え学ぶ授業」を実践するため、小中合同の研究授業を通して、全ての児童生徒が主体的・探究的に学ぶことができる学校をめざす。</p> <p>探究的な学習の充実に向け、小中で連携して9年間のカリキュラムを構想するとともに、「子どもの声から」「机からの脱却」「本物に触れる」(地域連携を含む)を意識した取組を行う。</p>
--	--	---	---

育成する 資質・能力	学びに向かう力・課題発見・解決力・自己・他者理解力
めざす 子ども像	<p>学びに向かう力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を見つけ、自分で決めたことを粘り強くやり遂げている ・見通しをもって活動し、様々なことに挑戦している <p>課題発見・解決力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ?」「どうして?」から問いを見出し、進んで取り組んでいる ・解決のためのスキルを多様に身に着けている ・課題解決のためのよりよい方法を考え、解決のスキルを選択して主体的に解決している <p>自己・他者理解力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの個性や成長を認め合い、学び合いを通して、自己有用感を高め挑戦しようとしている
研究	<p>テーマ</p> <p>主体的に問いを見出し、協働して解決する児童の育成 ～探究的な学習を通して～</p> <p>内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが学ぶすべを身に着け、探究し続ける授業 生活科・総合的な学習での「子どもの声から」「机からの脱却」「本物に触れる」 「描く活動」で考えを外化させ、共有につなげる理科 フレームリーディングを活用して一人読みができ、文章を深く理解する国語
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ?」「どうして?」と問い続け、探究する授業 ・学ぶすべを身に着け、自ら選択・発信・交流・改善する授業 ・自分の考えをもって共有の場で話し合い、考えを広めたり深めたりしながら、協働して解決する授業 ・学びの積み重ねで、自他の成長や変容を実感する授業

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>心豊かでたくましく 自ら考えて行動できる子どもの育成</p>

<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <p>生活科と総合的な学習の時間を中心にした探究的な学習の継続により、課題発見・解決力や自己肯定感が向上している。しかし、自分の考えを持たないまま話し合い活動に参加し、学習者として十分自立していない児童がいることが課題である。</p> <p>また、個性を理解しようという意識はあるが、集団の自治力に課題がある。</p> <p><授業></p> <p>総合的な学習の時間で実践してきた探究学習の単元作りが、教科の学習でも活かせるように取り組み、児童の発想を活かした単元づくりを進めている。</p> <p>しかし、思考力・表現力をねらう授業で、自力解決ができない児童への手立てが不十分のため、何も記述していない児童は、一部の発言力のある児童の発表を聞いて終わることが多い。練り合いの場面で児童の発言がつながることが少なく、教師との一問一答になったり、教師が一方向的に説明したりする。子どもに自力解決のすべを身に着けさせるため、「描く活動」「フレームリーディング」等を取り入れている。</p>

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
1	子どもが学ぶ すべを身に着 け、自分の考 えを持って探 究的に学び続 ける授業づくり	★	新規	探究学習を通 して、児童の発 想を基盤に単 元を作り、資 質・能力の向 上を図ると共 に、学ぶすべ を身に着けさ せる自立した 学習者を育て る	○理論研修・教材 研究・研究授業 の定期的実施 ○「描く活動」「フ レームリーディ ング」等を活用 した授業改善 ○自力解決をやり 切るための手立 ての構築	○単元末テストの正 答率40%未満 (低学年60%)の 児童が10%以内 ○每学期行う漢字・ 計算検定の合格 者80%以上 ○「授業づくりポ ートフォリオの 教師目標達成80%								
2	児童同士のつ ながりを深め、 自治力を高め る集団づくり		見直 し	児童主体の活動、 協働的な活動 を通して、自己 指導能力と共 感的な人間 関係を育む	○探究的学習や特 別活動での異 学年交流 ○エンジョイ運動 ウイークの実 施 ○児童の発想を活 かした児童会 活動・会社活 動	○振り返りに自他 の良さが書ける 児童80%以上 ○学期に2回、児童 の発想を活か した行事の実 施 *児童会行事、運動 会、発表会で実施								
1	自己の課題に 合う取組を選 択・実践する 生活改善		新規	メディアコント ロール週間と 生活習慣カ ードの自発 的取り組み を通して、生 活改善を図 る	○学期1回のメ ディアヘ コントロール の学習の実 施 ○生活習慣カ ードによる 個々の課 題に関する 取組	○メディアコント ロール週間 や生活習慣 (7項目から 選択)カ ードで、自 己目標を 達成した 児童80% 以上								
2	教師が教材 研究・授業 づくりを 楽しめる 環境の 整備		見直 し	教材の面白 さを感じ たり、児童 の反応に 成果を感じ たりする ことにつ ながる 研修を 推進す る。	○校内教科部 会で研 究・実践 し新 お互 いの 授業 改 善に つな げる ○理科の 体験 型 研 修を 教 材 研 究 を 学 期 1 回 実 施	○教師アンケート (教材研究を 楽しむ、 新しい 気づ き、 挑 戦 し た い こ と、 授 業 で の 手 ご た え 等) の 肯 定 的 評 価 80% 以上								

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。